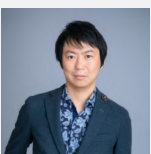


「新しい時代のプロデューサーのためのプロデュース概論」講師プロフィール

講師 ※敬称略	プロフィール		開催回
平澤 直		バンダイビジュアル株式会社（現：株式会社バンダイナムコフィルムワークス）、株式会社プロダクション・アイジー、株式会社ウルトラスーパービクチャーズを経て独立創業。法務担当からプロデューサーという異色の経歴。そのため国内版權管理はもとより、IPの海外展開における契約等にも知見がある。過去プロデュース作品は「ジャーニー 太古アゾバ半島での奇跡と戦いの物語」「プロメア」「猫がくれたまあるいしあわせ」「ID-0」「プブキ・ブランキ」「モンスターアニメ」「彼女と彼女の猫-Everything Flows-」「ウルトラスーパーアニメタイム」「翠星のガルガンティア」「輪廻のラグランジェ」など。 2019年12月7日より株式会社YAMATOWORKSの取締役に、2020年4月1日より株式会社グラフィニカの代表取締役に、2020年7月1日より株式会社ゆめ太カンパニーの取締役に就任。	第 1 回
			第 4 回
エドワード・サクソン		プロデュースを手掛けた『羊たちの沈黙』での主要5部門（作品賞・監督賞・主演男優賞・主演女優賞・脚色賞）および『フィラデルフィア』での2部門を含む、計8つのアカデミー賞を受賞、20以上のノミネート実績を持つ。1991年より映画芸術科学アカデミー会員。現在も第一線で活躍する傍ら、母校である南カリフォルニア大学映画芸術学部「ピーター・スターク・プロデュシング・プログラム」の専攻長として後進の育成にも尽力している。その他のプロデュース作品には、『アダプテーション』『すべてをあなたに』『ファーストフード・ネイション』、TVシリーズ『レイ・ドノヴァン ザ・フィクサー』などがあり、長編映画、ドキュメンタリー、ドラマ作品まで多岐にわたる。	第 1 回
山本 晃久		1981年、兵庫県西宮市出身。これまで『寝ても覚めても』（18年）、『スパイの妻（劇場版）』（20年）などの映画、「山田孝之のかんヌ映画祭」（17年/TX）、「恋のツキ」（18）、「全裸監督シーズン 2」（21年）など多数のドラマシリーズをプロデュース。映画『ドライブ・マイ・カー』（21年）では第74回カンヌ国際映画祭 脚本賞、第94回米國アカデミー賞国際長編映画賞など多数の賞を受賞。個人では第25回新藤兼人賞プロデューサー賞、第45回エランドール賞プロデューサー奨励賞、第41回藤本賞を受賞。C&Iエンタテインメントを経て、21年にウォルト・ディズニー・ジャパンに入社。Disney+のコンテンツ制作に携わり、「すべてを忘れてしまうから」（22年）、「ガンバル シーズン1・2」（22・24年）、「季節のない街」（23年）、「七塔の国」（23年）などを制作している。現在は独立し、株式会社キアロスクロの代表取締役・プロデューサーに就任。『白の花実』（25年）、「地震のあとで」「アフター・ザ・クエイク』（25年）などを制作している。	第 2 回
水野 詠子		東京を拠点とする映画会社ローデッド・フィルムズ代表。『十年Ten Years Japan』（総合監修：是枝裕和と監督）、黒沢清監督『旅のおわり世界のはじまり』、2022年カンヌ国際映画祭カマドール特別表彰を受賞し、日本のアカデミー賞正式出品作品となった早川千絵監督『プラン75』などをプロデュース。最新作は早川監督の『ルノワール』が2025年カンヌ国際映画祭のオフィシャルコンペティション部門に選出された。現在、石川慶監督によるポーランド・日本合作映画などの企画が進行中。	第 3 回
櫻井 大樹		アニメーション制作会社Production I.Gで、『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』の脚本家としてデビュー。その後、『レッドライン』、『おじゃる丸』などの有名作品で脚本家としてのキャリアを積む。『ジョパンニの鳥』という作品をきっかけにプロデューサーの仕事を開始。2017年にNetflixに入社し、アニメクリエイティブチームのディレクターとして活躍。『ポケモン コントロールジュ』、『ガンダム：復讐のレクイエム』、『グリム組曲』などのアニメをプロデュース。退社後、2023年6月に株式会社サラマンダー(Salamander Pictures)を設立し、新たなアニメの企画開発に取り組んでいる。	
鈴木 綾一		愛知県出身。慶應義塾大学大学院文学研究科前期修士課程（国文学）修了後、2006年に講談社へ入社し、週刊少年マガジン編集部配属。ヤングマガジン編集次長、投稿サイト事業チーム長を経て2021年より現職。『神さまの言うとおり』『僕たちがやりました』『ギャルと恐竜』などのマンガ作品立ち上げの他、『攻殻機動隊ARISE』『さよなら絶望先生』などを担当。2018年にマンガ投稿サイト「DAYS NEO」、2020年に「ゲームクリエイターズラボ」など新規事業を立ち上げ。	第 5 回
			第 6 回
四宮 隆史		慶應義塾大学経済学部卒。TVディレクターを経て、2003年に弁護士登録。映画、音楽、放送、出版、広告等のエンタテインメントビジネス全般のリーガルサービスを提供するE&R総合法律会計事務所の代表弁護士を務めるかたわら、福田靖、深田晃司、片山慎三、内田英治、岨手由貴子らをはじめとする映画監督・脚本家・小説家等のクリエイター・エージェンシー・株式会社CRG（Creative Guardian）、『あゝ、荒野』『月』『ナギダイアリー』『mentor』等の劇場映画を多く企画製作する株式会社スターサウンズ、映画監督の是枝裕和や西川美和らを擁する株式会社分福、株式会社嵐の各社の代表取締役社長を兼務する。	第 7 回
鶴田 智史		ゲームアプリのマーケティング業務に10年以上従事し、DeNAではポケモン社との協業タイトルのマーケティングプロデューサーやソフトウェア手法で開発しているタイトル群のマーケティングプロデューサーを担当 ゲーム/非ゲーム問わず、大小問わず様々な事業規模の案件でマーケティング戦略の立案や体制構築、マーケティング施策の企画実行など、マーケティングにおける上流から下流まで一連の流れに携わっている また、TGCAでの講師経験など、業界の未来のための後進育成にも積極的に関わっている	第 8 回
岡本 美津子		1987～2008年、日本放送協会（NHK）にて、編成、番組開発、番組制作、イベント制作、およびデジタルTV、インターネット関連業務に従事。2008年より、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻教授。2017年～2025年、同大学副学長を務める。大学での教育・研究活動の傍ら、プロデューサーとして、NHK Eテレ（教育テレビ）で放送中の『Eテレ0655』『Eテレ2355』や『テクネ 映像の教室』などを制作。2020年からは日本アニメーション教育ネットワーク（Japan Educational Network of Animation：JENA）代表理事。中間生成物保存活用委託事業においては、2024年度、2025年度のアニメ収蔵検討部会の座長を務める。	
市山 尚三		1963年山口県生まれ。東京大学経済学部を卒業後、松竹に入社。オフィス北野在籍中に国内外の様々な作品をプロデュースする。主なプロデュース作品に竹中直人監督作品『無能の人』（91）、侯孝賢（ホウ・シャオシェン）監督作品『フラワーズ・オブ・シャンハイ』（98）、サミラ・ママルバフ監督作品『ブラックボード/背負う人』（00）、貫柳柯（ジャ・ジャンクー）監督作品『罪の手ざわり』（13）、オダギリジョー監督作品『ある船頭の話』（19）、等がある。また、2000年から2020 年まで映画祭「東京フィルメックス」のプログラム・ディレクターを務め、2021年4月より、東京国際映画祭のプログラミング・ディレクターに就任。	